



とよかわの

みつけた!



報恩寺の絵馬



大同2（807）年に創立されたといわれる報恩寺の観音堂には、たくさんの絵馬が奉納されています。その中に、江戸時代の有名な画家、狩野元信が描いたといわれる、縦61.5 ㍍、横90.3 ㍍の巨大な白馬の絵馬があります。この絵馬は、寛永7（1630）年に吉田村の長松が奉納した、市内に残る絵馬としては古い時期のもので、市の有形文化財に指定されています。

言い伝えによると、この白馬が絵から抜け出して付近の畑の麦を食べて困ったことから、お寺の住職が、絵から馬が抜け出さないように馬の足におきゅうを据えたといいます。住職がおきゅうを据えた後からは、馬が畑を荒らすことはなくなったそうです。絵馬の白馬の後ろ足にあるこげた箇所は、そのおきゅうの痕だといわれています。

また、報恩寺には平安時代に作られたといわれる木彫りの千手観音菩薩像があり、5月18日(月)午前11時から、12年に1度の開帳の儀式が行われます。これに併せて絵馬を見ることができますので、この機会にお参りしてみてもはいかがでしょうか。

